

武庫川流域委員会
委員長 松本 誠 様

2005年01月26日

申し入れ書

1/27 郵便

市民オンブズマン兵庫
世話人代表 森池 豊武
市民オンブズ西宮
代表世話人 折口 晴夫
前川 協子
市民オンブズ尼崎
代表世話人 中村 正俊
梅澤 康弘



武庫川流域の治水事業が、効率的で効果的な事業になるよう、以下の内容をじゅうぶん考慮して進められるよう申し入れます。

◇治水安全度は複数案の検討を

国土交通省の基準では1/50~100に設定すれば良いことになっている。現在の武庫川の河川下流地区の改修事業は、治水安全度を1/17に対応するために工事を実施しており、事業終了は2018年を予定している。

県のたたき台、委員会の前回の確認は、それを1/100に対応するよう整備しようとするものである。

県財政が厳しい中、それを実現するためにはさらに超長期の期間を要するものとも思われ、現実的な計画とは考えにくい。

治水安全度については、複数案を検討し、費用と効果を十分検討しながら、決めていくべきである。

よって治水安全度は複数案での検討が望まれる。

◇基本高水流量4800 m³/sは過大

・引き伸ばし率

建設省河川砂防技術基準では、引き伸ばし率を2倍程度に止めることが望ましいとしているにもかかわらず、県の案では引き伸ばし率は2.5倍までになっている。

大阪市立大学の高田教授は、武庫川ダム建設計画に関し、「極端な集中豪雨型の雨の設定は流域全体に対してはありえない。だから(引き伸ばし率)2倍以上はあり得ない。(引き伸ばし率)2.261倍こんな雨を使っている。これは明らかにルール違反です。ありもしない集中豪雨を設定してしまった。(武庫川甲武橋の)基本高水は常識的には3,000 m³/s、多めに見て3,700 m³/s。」(2001年7月7日講演会報告書)という意見を出している。

新潟大学の熊野教授は、「あまりに引き伸ばし率が大きすぎると自然現象から逸脱する恐れがあるので、その引き伸ばし率は2倍以下を原則としている」(世界2004.10)と述べている。

しかし、県が「引き伸ばし率2倍程度は2.5倍以下」と主張する根拠は何も示されていない。

・カバー率

複数個の計画流量のうち採用する計画流量がどれだけカバーできるかというカバー率について、建設省河川砂防技術基準では、「60~80%となった例が多い」と示されている。

カバー率について、熊野教授も「『カバー率50%程度以上、60~80%となった例が多い』というのは、雨量や流量観測の誤差やさまざまな判断が入る基本高水の計算手法を考慮すれば、妥当な指針であると考えられる」(世界2004.10)と述べている。

しかし、県が提案する基本高水流量のカバー率は100%に近いものである。

もちろん、引き伸ばし率等の数値の正解はひとつではないだろうが、過大な設定をし過ぎると、可能性の低い災害のためにとつてもない費用がかかる恐れもある。

そこで、専門家及び関係者(それが一部であったとしても)から見て「明らかにルール違反」とまで指摘される引き伸ばし率等の設定は避けるべきである。

◇ダムに絡む社会情勢を踏まえて議論を

長野県や淀川流域委員会などでは、ダムに依存しない治水方法が検討され、脱ダム化が進められている。

武庫川委員会でも、そのことを十分に踏まえた中で、議論をしていただきたい。

以上

武庫川流域委員会
委員長 松本 誠 様

武庫川流域在住の一県民として、私は自分自身の体験にもとずき下記のように私見を申し上げます。

1. 安全な住宅地：今後 数十年から百年という遠い将来にわたって、自然災害を絶対に受けないと保証し得るところはないと私は思います。
2. 武庫川流域で自然災害のさいに、特に危険と思われる場所：
 - ガケ状になっている所の上、中、下部
 - 盛り土などで埋められ 一見ガケのように見えない所
 - 川に近い所。川が蛇行している所は特に危険
 - 河口。津浪の危険がある。以上、よく知られていることですが、以外と無視されやすいようです。
3. 保水力の喪失：40-50年前と比較してみると、特に流域の上、中流部から西宮にかけて大層 開発された（ゴルフ場、住宅地、学校、博物館、浄化センターなどの巨大施設など）。その結果、以前、山林、里山、田畑が長年にわたって持っていた保水力が大きく失われた。一方、住宅や施設などで使用された廃水は川へ流れこむ。以前、「あのゴルフ場が出来て以来、谷川の水の様子が変わった」とある古老が言っておられた。一見、純然たる自然災害だが、人造災害の要素もありうることも認識しておく必要がある。川の水は貴重です。川は大切です。川が悪い訳ではありません。
4. 予知・防災対策-行政へのお願い：地震と違って雨水による洪水はある程度 予知できます。昨年の23号台風の際も、武田尾周辺の方々は異常な増水を見て、これは”危険”と判断し JRで避難したと言っておられた。行政として、流域の各地、特に 両側の山から谷川が武庫川に流入している所にも、流量計を設置して、少しでも早く増水を予知し関係住民に警報を出す必要があると思います。さらに崩れやすいと判断される地点には岩盤などの動きを察知する計器の設置も必要かもしれません。
5. 今までに蓄積された資料：ご高承のように、地球温暖化が予想外に早く進んでいるのではないかと懸念されています。従って、これからの降水量、流量など各種の予測をする上で過去のデータをそのまま活用することは適切とは言えないのではないかと思っています。
6. ダムについて一言：巨額を投じて巨大ダムを造れば下流は一安心でしょうが、直近上流は浸水を懸念なさるでしょう。穴空きダムの場合、年数が経てば 土砂が堆積して川床が上昇し、膨大な流木やさまざまなゴミで、穴が本来の役目を果たせなくなる可能性がある。堆積する土砂やゴミを回収するための公道も現在はない。なによりも、貴重な県財政と県民のその他の要求の緊迫さと重要度との兼ね合いになることでしょう。私はダムは武庫川の場合、最善の治水対策ではないと思っております。広く流域住民に受け入れられ、自然環境に優しく、しかも将来に大きな負担を残さない方法があるのではないのでしょうか。すべての関係者が過去のいきさつを忘れて 忌憚なく意見交換されて最善の結論を見いだされることを切に希望します。

以上、稚拙な私見をご一読くださいませして有り難うございました。なお、もし私の勘違い、誤解などによる間違いや無礼な表現がございましたら、本意ではございませんので なにとぞお許しください。

末筆ながら 委員の皆様方と行政関係者の方々のご健勝とご活躍をお祈り致します。

尼崎市民 西松弘景
2005-1-25